



19号 令和3年7月20日

<学校教育目標>

ともに伸びる

校長だより

呉市立市阿賀小学校
安宗 誠



災いをプラスに変えられるのは感謝の心

本日、阿賀っ子全員、無事に終業式の日を迎えることができました。保護者の皆様とともに喜び合いたいと思います。相変わらず、コロナの影響を考慮しながらの実施となりました。校長式辞については、次のとおりです。

終業式 式辞

今日、リモートではありますが、こうして、1学期の終業式を迎えることができました。このことをみなさんと共に喜び合いたいと思います。当たり前のような普通の生活ががらりと変わり、それが実は当たり前ではないということを知らされて1年以上。そんな中、この1学期、コロナに打ち勝つことを目指してきました。そんな阿賀っ子の1学期の振り返りを少し紹介します。

「ぼくは自分でも少しがまん強くなったと思います。出かけたいところがあっても、友達とおしゃべりしたいと思っても、がまんしました。以前はがまんしなくてもよかったことをたくさんがまんし続けてきました。少しぐらいのがまんは平気になりました。」

「何がまわりの迷惑になり、何がまわりのためになるのかを考えながら行動するようになりました。」

「ルールを守らない人を進んで注意するようになりました。」

「人が見ていても、見ていなくても、ルールを守って行動するようになりました。」

「元気に登校できることがとてもありがたいことだと思えるようになりました。」

つい最近のことです。私が登校の見守りを終えて、登校途中の女の子といっしょに歩きながら、「もうすぐ、夏休みでうれしいね。」と、話しかけました。すると、「学校があったほうが楽しい。だって暇なんだもん。」という言葉が返ってきました。「学校が楽しい」のはよいことですが、夏休みが暇だと言えることも、プラスに考えてほしいなあと思いました。3年前の西日本豪雨災害のすぐ後の今ごろ、果たして暇だと思えたかどうか？もっと言えば、76年前の戦争中の今ごろ、雨のように爆弾が降ってくる中、とてもじゃないですが、暇だなんて思えなかったはず。この夏休みだって、次の瞬間、何が起こるか分かりません。大地震が起こるかもしれません。突然トラックが突っ込んでくるかもしれません。ですから、大切なことは、今、この瞬間に自分の命があることに感謝の気持ちがあるのか。今のこの瞬間の過ごし方は、自分の命を守ってくれる家族やまわりに感謝した過ごし方になっているのか？ということをつつと自分の心に問いかけながら過ごすことです。そうすれば、道路に飛び出すような命を粗末にするようなこともないでしょう。阿賀小のきまりを破って、友達を傷つけたり、保護者を悲しませたりするようなこともないでしょう。宿題も進んでできるでしょう。時間を忘れてゲームばかりするようなこともないでしょう。家のお手伝いも進んでできるでしょう。

この夏休み、ぜひそういう過ごし方をしてほしいと思います。

2学期には、また、みんな元気な顔を見せて欲しいと思います。2学期から転校するお友達もいます。是非新しい学校でも頑張りたいと思います。